

このコーナーでは、農業のちょっとしたコツを、市の営農指導員からお知らせします。

## 営農指導員のワンポイントアドバイス

営農指導員 若山 謙

### 9月の野菜栽培 主なスケジュール

夏の暑さが一段落すると、秋冬野菜の栽培が本格化します。この時期は一晩ごとに夜の気温が下がってくるため、種まきや植え付けは遅れないように気を付けましょう。

ダイコンは、9月中旬までに種まきをします。ハクサイは、苗から育てる場合、9月中〜下旬が定植時期です。秋ナスは順調に生育すれば9月に収穫のピークを迎え、気温が低下してくる9月下旬〜10月上旬には処分します。

9月以降、日照時間が短くなるとともに、台風、長雨の時期になるため、早めの対策を心掛けましょう。

### 台風対策

天気予報をチェックして、台風が接近しそうになったら事前に強風と大雨の対策をします。水はけの悪い場所があれば、あらかじめ排水溝を作るなど、できるだけ水を溜まらないようにしましょう。

ナスなど果菜類の栽培が続いている場合は、倒れないように支柱を強化し、ひもで縛っておきます。

台風が通過したら、風で倒れて自力で立ち上がれない株は支柱に

誘引し直します。折れた枝はハサミで切り、ひどく傷ついた葉は除去します。茎葉が汚れてしまったら、真水で洗い流すようにしましょう。

### アブラナ科葉菜類の害虫対策

ハクサイ、キャベツ、ブロッコリー、カリフラワーなどのアブラナ科の葉菜類は、生育初期に害虫の被害を受けやすいことが悩みの種です。アオムシ、ヨトウムシ、コナガなどは成虫が飛来し卵を産みつけます。うっかりしている間に幼苗が食害にあうと、葉脈だけを残して全滅してしまふことも。小まめに見回って早期発見、早期防除を行いましょう。防虫ネットをトンネル状にかけると被害を抑えることができます。

### タマネギの種まき

タマネギは、苗からのスタートが一般的ですが、種まきからの栽培も難しくありません。早生種では9月上〜中旬、晩成種では9月中旬に種をまきます。品種を組み合わせると、早採りから貯蔵用まで、長期間収穫できます。畑に苗床を用意するか育苗箱で種まき育苗し、11月上〜下旬にかけて定植します。タマネギは酸性土壌に弱いので、土作りの際には苦土石灰を忘れずに施しましょう。

### 問い合わせ

農業振興課農業振興係

0824・73・1131

## 庄原が好き



牧場とモーモーあいすらんどを経営している 田邊 賢太さん、梢さん

このコーナーでは、人と人とのつながりや暮らしのストーリーを、シリーズで紹介しています。まちを知り、地元の新なる魅力を発見することで、人を、まちを、もっと好きになりますように。

口和町で牧場経営を受け継いだ田邊賢太さんと妻の梢さん。乳牛の飼育に携わるきっかけや、今後の目標について話を聞きました。

### 牧場を継ぐ決断

実家の牧場とジェラート店を継ぐため、妻と一緒に口和町に帰ってきたのが6年前です。

高校卒業後に神戸の専門学校に進み、飲食業の会社に就職しました。

それから10年経った頃、両親から「年も取ったし、賢太が帰らないなら牧場とジェラート店はやめようかな」と言われました。同じ頃、職場でも「独立して経営者にならないか」という話があり、本当に悩んだのを覚えています。幼い頃から手伝いをしていたので、酪農は体力仕事で休みがないと思いついていました。牧場を継ぐことは難しいかもしれないと考えていたそのと

き、知人から「最近の酪農は機械化が進んでいるよ」と教えてもらい驚きました。

すぐに、機械化している牧場を紹介してもらい、飛び込みで見学に行きました。牧場を何か所か見学し「これから自分でもできる」と確信しました。そして、まずは牧場の機械化を目標に、口和に帰ることを決めました。

### 夢を一つずつ叶えたい

帰ってきて分かったのですが、庄原市の酪農家には若い後継者が多いと思います。食事会を通して彼らと仲良くなり、分らないことは全部教えてもらいました。地元は思っていたより同年代の若い人が多く、今では私も青年会に入って一緒に活動しています。

2年前に牧場を法人化し、ことしは念願の新しい牛舎を建設。自動搾乳機も導入し、機械化の夢が叶いました。今では妻もジェラートづくりだけでなく、牛の飼育に携わってくれています。今後は、休止しているジェラートの店舗を再開させることと、自給飼料の作付けを増やすことを目標に、頑張っていきたいと思えます。

### 問い合わせ

自治定住課定住推進係

0824・73・1257